

I 小中一貫教育を推進するための組織

道徳分科会	体育・保健体育分科会	生活指導分科会
<p>【豊かな人間性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳授業の参観による相互理解と指導法の改善 ・道徳教育に関わる情報交換と資料の作成 	<p>【体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育、保健体育の授業の参観による相互理解と指導法の改善 ・体力向上の取組に関わる情報交換と資料の作成 	<p>【安定した学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の参観による相互理解と指導法の改善 ・生活指導や学習規律に関わる情報交換と資料の作成 ・町内会等の地域組織との連携協力

II 取組年間計画

日程	取組内容	会場
6月11日(木)	授業公開および第1回中学校区別教職員研究協議会の開催	中村西小学校
8月25日(火)	外国語活動3校合同研修会の開催 ※資料参照	中村西小学校
10月25日(日)	第13回ふれあいフェスタへの参加	中村小学校校庭
11月3日(祝)	中村西町会運動会への参加	中村西小学校校庭
11月17日(火)	授業公開および第2回中学校区別教職員研究協議会の開催	中村小学校
11月20日(金)	小中交流部活動の実施	中村中学校および中村小学校体育館
12月5日(土)	第21回ふるさと中村音楽祭への参加	中村西小学校体育館
1月22日(金)	ねりま小中一貫教育フォーラムでのポスター展示	練馬文化センター小ホールロビー
1月28日(木)	中学生職場体験(リトルティーチャー)の実施	中村小学校 中村西小学校
1月29日(金)	授業公開および第3回中学校区別教職員研究協議会の開催	中村中学校
2月5日(金)	中学校教員による出前授業の実施	中村西小学校
2月15日(月) ～19日(金)	中学校教員による出前授業の実施	中村小学校
2月21日(日)	中村東町会主催第41回中村小学校卒業生記念バドミントン大会への参加および中学生の協力参加	中村中学校体育館
3月春休み中	野点の会への参加	中村小学校校庭

中学校区別教職員研究協議会 (会場：中村小学校)



Ⅲ 実践校の特色ある取組

1 課題改善カリキュラムの実践・検証

(1) 道徳分科会

今年度は、中村西小学校、中村小学校、中村中学校で各1回、『「思いやり・親切」に重点を置きながら、豊かな人間性を目指す授業』を公開し、相互に参観し合った。小学校では低・中・学年ごとに、中学校では各学年で1クラス以上の授業公開と研究協議を行った。

9年間を通じて「2-(2)思いやり・親切」について年間3時間取り扱うように計画しているが、すぐに授業の成果が実生活に結び付くわけではない。研究協議では、普段の教育活動で、思いやりのある行動や行いをする児童・生徒を育てるために、どういうことを意識して取り組んでいるかというテーマで情報交換を行った。授業の進め方では、ねらいに迫る手だて、発達段階ごとの課題について共通理解を図った。

(2) 体育・保健体育分科会

体育・保健体育の分科会の取組は、「体力の向上」をテーマにして、体育や保健体育の授業を参観し合い、小・中学校の教員が相互理解を図り指導法の改善をすることと、「体力の向上」に関わる情報交換と資料の作成を行った。

ア 課題改善カリキュラムを作成するために行ったことは、校区别協議会の日に体育・保健体育の授業を参観し合い、その後の協議会で、体育・保健体育授業における「学習規律の共有化」や、「領域や内容の系統性の確認」および「指導方法の違いの理解」について話し合った。例えば、「授業時の服装」や「見学をする時のきまり」、「準備運動」等についての情報交換や、中学校で行われる「臨海学校の遠泳」「マラソン大会」「運動会学年種目の大なわ跳び」に向けて小学校で共通して取り組めることを出し合った。

小学校で以前から盛んに行われていた「なわとびの取組」に加えて、「臨海学校の遠泳」を意識して「平泳ぎ」の指導を行うことや、中学校の「マラソン大会」で必要となる持久力を向上させる「時間走」にも力を入れて、小・中学校間の系統性を共通理解することができた。

イ カリキュラム改善の視点としては、9年間の体育・保健体育で系統立てて取り組める領域は「体づくり運動」である。そして、体力調査の結果から「跳躍力・投力・柔軟性」を高める指導が必要であることから、「体づくり運動」に重点を置いて指導を継続することにした。そのため、中学校区別教職員研究協議会では「体づくり運動」の授業を中心に研究授業を実施して、小中間の情報の共有に努めた。また、各校の取組の成果として、持久力においては平均を大きく上回る結果を示しており、今後も系統的に体力向上を目指した活動を継続して行っていく。

ウ 今年度の体力調査の結果から、両小学校ともに、共通して平均を下回る傾向のあった種目は、反復横跳び（敏捷性）、20m シャトルラン（持久力）、ソフトボール投げ（投力）であることが分かった。中学校では、長座体前屈（柔軟性）、ハンドボール投げ（投力）が平均を下回る傾向にあった。一方、中学校2・3年生は、反復横跳びと20m シャトルランは平均を上回っている。

このことから、学年が上がるにつれて持久力と敏捷性がついてきていると考えられる。特に持久力が向上していることは、3校ともに取り組んでいるマラソンによる成果であると捉えることができる。投力については、3校ともに課題となっているので、今後とも指導の工夫を図っていきたい。

(3) 生活指導分科会

安定した学校生活を目指し、あいさつや学習規律の指導を中心に、各校で情報共有を図った。中学校区別教職員研究協議会においては、小・中学校の視点から、参観した授業における学習規律について意見交換を行った。「中小のやくそく」、「中西スタンダード」など、指導にあたる際によりどころになる学習規律があることや、中学校では教員はチャイム教卓、生徒はチャイム着席を行っていることなど、各校の取組についても情報を共有した。また、「年度初めの学級作り」というテーマを設け、小・中学校教員による教育実践についての交流を行った。宿題の提出を徹底させるための方法や、いじめ防止対策、児童・生徒の居場所づくりなど、具体的な課題について、工夫点や発達段階ごとの課題、指導の重点などについて協議を行い、小中学校間で共通理解を図ることができた。

また、お祭りや防災訓練などの地域行事に学校が積極的に参加することで、地域との連携を深めてきた。「ふるさと中村音楽祭」には、中村小学校鼓笛隊、中村西小学校の合唱団、中村中学校吹奏楽部と3校の児童・生徒が参加し、交流した。このような取組を通して、9年間にわたって地域全体で子供を育てるという意識を高めることができた。

2 児童生徒の交流

(1) 小中交流部活動

小中交流の1つとして、中村中学校では中村小学校と中村西小学校の6年生が自分で選択した部活動を体験する取組を行っている。今年度は、11月20日に、中学校の定期考査最終日の午後に行っている。

生徒は、自分の得意とする部活動を児童に指導することで、中学生としての自覚と自信をもつことができる。また、児童は好きな部活動を体験することで、進学への期待を膨らませ、中学生に対して立派な先輩として尊敬の気持ちをもつことができる。また、卒業生の姿を間近で見ることで、部活動の具体的なイメージをもつことができ、進学後の不安を解消することにもつながった。



小中交流部活動（会場：中村中学校）

(2) 中学校教員による出前授業

中村中学校の教員が中村小学校と中村西小学校の6年生の全クラスで出前授業を行った。中学校は2時間連続の空き時間がある教員のリストを小学校に提示し、その中から各クラスから希望のあった教科の教員が出向く。授業内容は小学校担任と相談のうえ決定し、終了後には小学校担任と授業の進め方などについて情報交換を行っている。中学校教員にとっては、新年度に入学してくる児童を知るよい機会になり、また、児童にとっては、中学校の学習に対する不安を解消する機会となっている。

(3) 中学生の小学校での職場（リトルティーチャー）体験



小学校での職場体験（会場：中村西小学校）

中村中学校1年生で小学校での職場体験を希望した生徒を中村小学校と中村西小学校で受け入れている。それぞれ担任や専科教員の学習補助として授業に参加したり、休み時間は児童の遊び相手になったりするなど、様々な経験をする。職場体験学習に取り組む生徒にとって、出身校の教員や児童と交流することは、安心感と自信を得ることにつながったようである。また、児童も、クラブや委員会などで一緒に過ごした経験もある生徒が多いこともあり、卒業生の存在を身近に感じたり、憧れを抱いたりするよい機会にもなった。また、生徒は体験前に小学校の担当教員と事前打ち合わせを行い、職業についてのイン

タビューも実施する。事後にはお礼状を持参するなどの活動を行っている。

(4) 町会主催「中村小6年生卒業記念バドミントン大会」への中学生部員の協力

町会が主催する中村小学校の卒業生記念バドミントン大会を中村中学校の体育館で会場にして開催し、小学校の担任も児童の引率を担当している。中村中学校バドミントン部員が審判や運営に協力し、円滑な大会運営を貢献している。終了後の反省会では中学生から見た小学生の姿について、また町会の運営について発展的意見が多く出されている。町会、小学校6年生担任、中学校顧問、中学生が連携協力して実施されている行事である。

3 その他の新たな取組

(1) 中学校区別教職員研究協議会の活性化

中学校区別教職員研究協議会を、

① 小学校と中学校の連続性や系統性のある教育活動のあり方について検討することを念頭に置き、小学校と中学校の教育実践を交流する。

② 工夫点や課題、発達段階ごとの指導の重点等について情報交換をする。

と明示した。

各回のテーマは以下のとおりである。

第1回協議会（6月）・・・「年度初めの学級づくり」について。例：宿題提出を徹底する方法、不登校・いじめ対策、児童・生徒の居場所づくり。

第2回協議会（11月）・・・「スマートフォン・携帯電話」の取り扱いについて。子供たちの使い方やトラブルなどの現状と指導のあり方他。

第3回協議会（1月）・・・「学習指導における縦のつながり」について。教科ごとのグループをつくり協議。児童・生徒の実態や、教科の特性を踏まえた指導の工夫、各学年における重点などにおいて。

(2) 地域・家庭への情報発信

ア 中学校HP、小学校HPのリンク相互貼り付け

各校ホームページのトップ画面に他2校のリンクを貼り付けてお互いの教育活動を簡単に見ることができるようにした。

イ 中学校HPでの「小中一貫教育」のページ作成

小中一貫教育研究グループからの流れや、小中一貫教育実践校になってからの取組を紹介するページを作った。小学校でも同様のページを作成予定。

(3) 小小連携

中村西小学校において、8月25日に外国語指導の合同研修会を開催した。講師に、東京家政大学人文学部英語コミュニケーション学科の太田洋教授を招いた。この研修会には中村小学校教員、中村西小学校教員及び中村中学校英語科教員3名が参加した。

小学校と中学校両教員が、小学校における「外国語活動」、中学校における「英語」の授業の実際や、互いの役割を知る機会となった。児童が中学校に進学したとき、「小学校で学習したことが生かされている」「小学校のときのようにして学んでいけばいいのだ」と思えることが大切であるということを通理解した。そのことが、充実感や安心感、意欲の向上に繋がるからである。

また、受け入れる側の中学校での学習を円滑に進めるためには、身に付けた力や、英語に向かう気持ちに大きな差が出ないようにするためにも、校区内の小学校同士が連携していくことが、大変重要であることを確認した。小学校の外国語活動では、児童が「外国語とのいい出会い」をすることを大切に、「聞きたい」「伝えたい」「知りたい」という気持ちや「推測して聞こうとする態度」を育てていこうという共通の意識をもつことができた。

平成30年度の3、4年生での外国語活動実施および5、6年生の英語教科化に向けて、3校で共通理解を図ることができた。



外国語活動研修会（会場：中村西小学校）

IV 今後の方向性

- 児童が不安なく中学校に進学できるように3校で同一歩調をとって学校運営をしていく。
- 新任・転任職員への啓発を年度当初に計画し、3校で進めている授業規律の確認等を行う。
- 体力テストの結果の経年変化を見て、指導に生かす。
- まだ策定されていない教科の課題改善カリキュラムを作成する。
- キャリア教育や総合的な学習の時間の9年間を見通した指導計画を作成する。
- 中学校生徒会役員が生徒会便りを小学校に持参し、愛の光運動などへの協力を要請する。小学校では代表委員がパイプ役となって各学校のとりまとめを行う。
- 試行的に始めた中学生作品の小学校での展示について、年間で計画を立ててコンスタントにできる取組に変えていく。

<資料>外国語活動 発達段階の重点（平成29年まで）

I期（小学校第1学年から第4学年）…外国語活動以外でも行う

活動目標

- ①みんなで、大きな声で、一緒に活動する。
- ②パートナーとペアで協力して行う。
- ③仲間はづれを作らない。

活動の流れ

- ①全学年でゲームなどの参加型授業を取り入れる。
- ②3、4年生では、全体指導（活動）→個の指導（発表）を取り入れる。

II期（小学校第5学年から中学校第1学年）

- 小5 英語を学ぼうとする態度を認める。
個人の意思表示ができる場面を取り入れる。（例：I like …）
- 小6 知的好奇心を高める活動を入れる（「調べてみたい」、「言えるようになりたい」、「書けるようになりたい」を伸ばす）
「聞きたい」「伝えたい」「知りたい」という場を設定する。
日本語と英語の音素の違いに気付かせる。
- 中1 分かるところから推測して聞く機会を設定する。
フォニックス（アルファベットの音読み、名前読み）指導を取り入れる。
表現として覚えたものから基本文（文法）としての整理へつなげる。

III期（中学校第2学年から第3学年）

- ・4技能（読む、聞く、話す、書く）の徹底。
- ・4技能の統合（例：読んだことについて感想を書く、聞き取ったことを他の人に話して伝える）。
- ・1、2年の内容（基本文）の定着（→繰り返しの練習）。